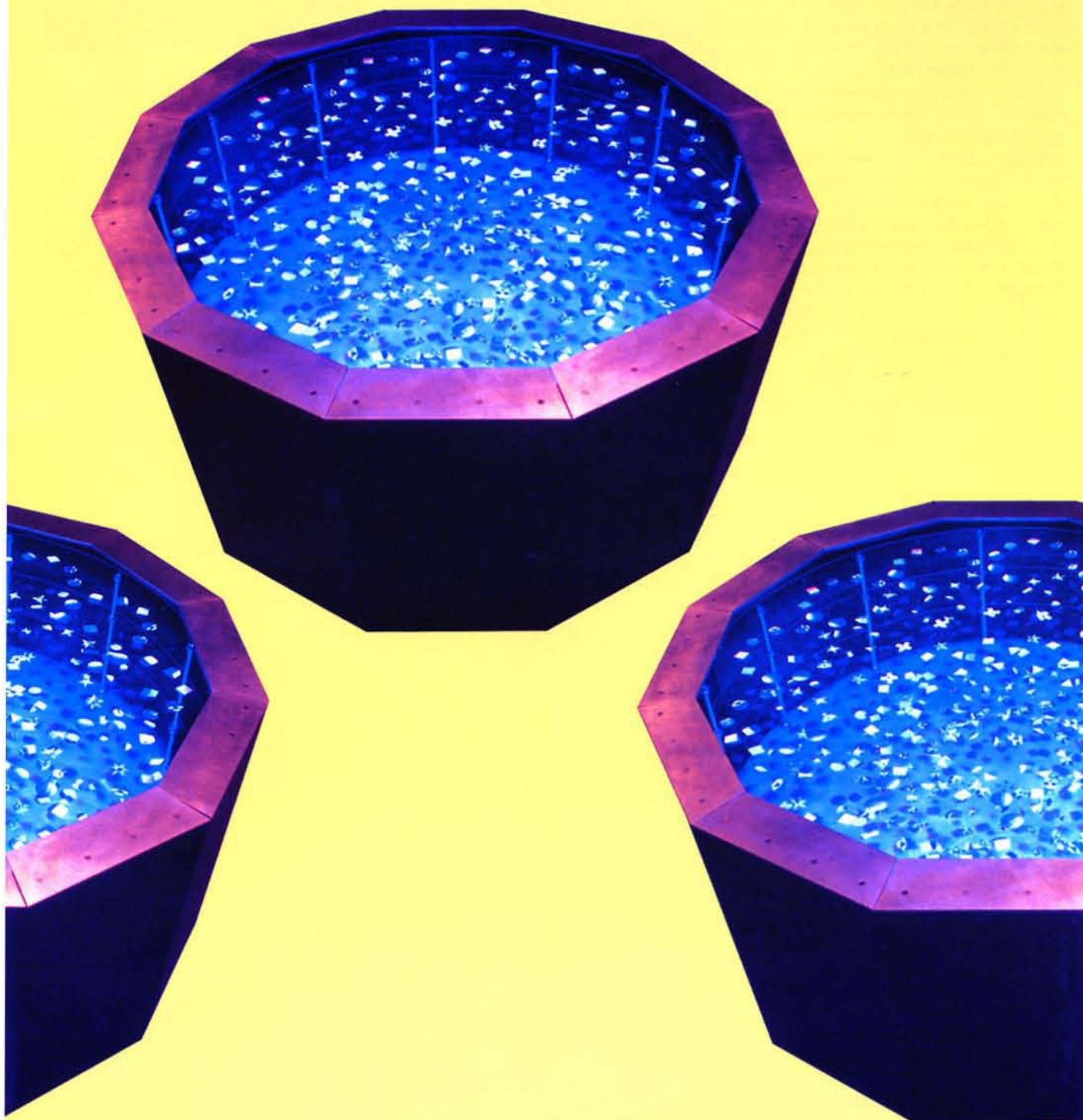


IMAGINARIUM I

映像工夫館シミュレーション



イマジナリウム I 1990年10月18日(木) — 10月23日(火) [6日間休館日なし]
主催＝東京都写真美術館 開館時間＝正午—午後8時[入館は午後7時30分まで] 入館無料
東京都写真美術館 Tokyo Metropolitan Museum of Photography

IMAGINARIUM I

映像工夫館シミュレーション

東京都写真美術館は、総合開館のさいに「映像」一般について取り扱うスペース「映像工夫館」を併設します。そのシミュレーションとして、第1次開館の3年間、年に1回ずつ「イマジナリウムⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を開催します。

「イマジナリウム」とは、造形作家山口勝弘による造語で、イメージ(映像)の未来庭園、一種の理想郷を意味しています。

初期の映像装置のひとつに、円盤に描いた絵を回転させ、鏡に映して、スリットの間からのぞくとアニメーションになる「驚き盤」というものがあります。そんな素朴な装置が人々に新鮮な感動を与え、現在の多様な映像の世界をもたらしました。最先端の映像表現の基盤にはやはりこのような感動や興味があるとも考えられます。

今回の「イマジナリウムⅠ」では、開館時間を2時間ずらして正午から夜の8時まで展示を行ない、夜間の映像展示やオープンワークショップを実施します。また、映像キットつきリーフレット(無料)を配布し、展示の模様を記録したビデオパッケージを制作します。

実際に手を動かしてキットを組み立て、素朴な映像に触れる試みに参加して下さい。

映像工夫館について

東京都写真美術館には、平成5年度以降に予定されている総合開館時に、映像一般について展示する「映像工夫館」が併設されます。ここで展示のテーマとするものには、映像文化史、イメージナウ、ワークショップという3つの柱があります。影絵からCGに至る映像の歴史をたどる部分、過去や現在における先進的なイメージを紹介する部分、そして映像が生まれ、展示され、観賞される様子を体験する映像工房(ワークショップ)の3つを通して、広い意味での映像について考えていきます。

出品作家

IKIF ■ 寺門孝之 ■ 荒木博志 ■ 岩井俊雄 ■ 櫻井宏哉
ビデオ・イマジナリウム ■
平野治朗[コンプレッソ・プラスティコ] + 森川ヒロト[フリッカーズ]

ワークショップ「イメージを体験しよう」
今回の出品作家である岩井俊雄、IKIFと一緒に今日の映像の原点と言える素朴なイメージ(映像)を体験しましょう。

講師：岩井俊雄、IKIF

日時：10月20日(土)午後2時より

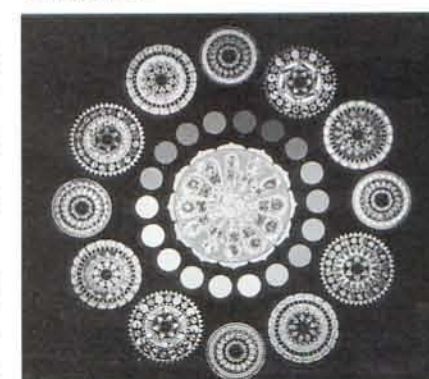
会場：東京都写真美術館 展示室

参加費：無料

■申込方法 当日正午より会場にて受付



岩井俊雄/時間層Ⅳ



IKIF(石田木船映像工場)/阿耳曼陀羅Ⅱ



櫻井宏哉/テロリストだよ



寺門孝之/TRANSGENIC ANGEL



荒木博志/MECHANIC & ANGEL



コンプレッソプラスティコ作品/Everybody Knows NEW LIFE (参考作品・今回はビデオ・イマジナリウムに参加)

東京都写真美術館

所在地＝〒150 東京都渋谷区恵比寿4-19-24

TEL 03[280]0031代

交通機関＝JR・地下鉄恵比寿駅より徒歩5分

美術館専用の駐車場はございませんので、お車でのご来館はご遠慮下さい。



イマジナリウム I 1990年10月18日(木) — 10月23日(火) [6日間休館日なし]
主催＝東京都写真美術館 開館時間＝正午—午後8時[入館は午後7時30分まで] 入館無料
東京都写真美術館 Tokyo Metropolitan Museum of Photography